

令和4年度奈良県計画に関する 事後評価

令和7年1月
奈良県

※ 本紙は、計画期間満了の翌年度まで、毎年度追記して国に提出するとともに、公表することに努めるものとする。

1. 事後評価のプロセス

(1) 「事後評価の方法」の実行の有無

事後評価の実施にあたって、都道府県計画に記載した「事後評価の方法」に記載した事項について、記載どおりの手続きを行ったかどうかを記載。

行った（医療分）

・令和6年2月19日の医療審議会での時点までの実施内容について報告を行った。

行った（介護分）

・令和6年9月2日開催の協議会での時点までの実施内容について報告を行った。

(2) 審議会等で指摘された主な内容

事後評価の方法に記載した審議会等の意見を聞いた際に指摘された主な内容を記載するとともに、内容の末尾に審議会等名とその開催日時を記載すること。なお、主な内容については、審議会等の議事概要の添付も可とする。

審議会等で指摘された主な内容

・特になし。

2. 目標の達成状況

令和4年度奈良県計画に規定する目標を再掲し、令和5年度終了時における目標の達成状況について記載。

■奈良県全体（目標と計画期間）

1. 目標

奈良県においては、医療介護総合確保区域の課題を解決し、高齢者が地域において、安心して生活できるよう以下を目標に設定する。

（1）地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

既に導入済みの情報収集及び指標算出システムを活用し、各病院の医療提供状況等の分析評価を行うとともに、地域における病院の役割等について関係病院と協議を行い、病床の機能分化と病院間の連携の強化を図る。

医療機関の機能分化・連携により、効率的かつ効果的な医療提供体制の構築を図るため、病床規模の適正化を伴う施設・設備の整備に対して支援を行う。

・ 地域医療構想で記載する令和7年度に必要となる医療機能ごとの病床数

高度急性期 1,275 床

急性期 4,374 床

回復期 4,333 床

慢性期 3,081 床

（2）居宅等における医療の提供に関する目標

奈良県においては、高齢化社会のおとずれや疾病構造が慢性疾患を中心に変化していくことにより、長期にわたる療養や介護を必要とする高齢者の増加が見込まれており、終末期を含め、在宅で介護や医療サービスを受けることを希望する高齢者も多いことから、円滑な在宅療養移行に向けての退院支援が可能な体制構築など、以下に記載する医療介護総合確保区域の課題を解決し、高齢者が地域において、安心して生活できるようにすることを目標とする。

訪問看護の推進を図るため、訪問看護関係者で構成する訪問看護推進協議会を開催するとともに、訪問看護を担う人材の育成を図るための研修会を実施する。

また、大学と病院が連携して、将来県内で在宅看護の業務に従事しようとする者に奨学金を貸与し、在宅看護に関する教育プログラムを実施する制度に対して、補助金を交付することにより、将来の在宅人材確保のインセンティブを与える。

- ・ 在宅看取り率の向上（H29：24.1%→R4：27.1%）
- ・ 在宅療養支援診療所数の向上（H30.10 末：162 件→R4 末：171 件）
- ・ 県内訪問看護ステーション看護職員数の増加（H30：692 人→R4 末：890 人）
- ・ 訪問歯科診療件数の増加（H30：503 件→R4：600 件）

（3）介護施設等の整備に関する目標

地域包括ケアシステムの構築に向けて、第8期県介護保険事業支援計画等において予定している地域密着型サービス施設等の整備を行う。

老朽化した定員30人以上の広域型施設の修繕を同時に進めるため、介護施設等を1施設創設することを条件に、広域型施設1施設の大規模修繕又は耐震化を行う。

介護職員の負担を軽減するために介護施設等の大規模修繕の際にあわせて行う介護ロ

ボット・ICTの導入を支援する。

介護施設等において、看取り対応が可能な環境を整備する。

□地域密着型サービス等整備費用に対する支援

認知症高齢者グループホーム 7カ所

小規模多機能型居宅介護事業所 2カ所

□介護施設等の創設を条件に行う広域型施設の大規模修繕・耐震化整備支援

特別養護老人ホーム 3カ所

介護老人保健施設 1カ所

□介護施設等の大規模修繕にあわせて行う介護ロボット導入支援

特別養護老人ホーム 5カ所

介護老人保健施設 5カ所

ケアハウス（特定施設） 1カ所

小規模多機能型居宅介護事業所 1カ所

□看取り環境整備支援

特別養護老人ホーム 4カ所

介護老人保健施設 2カ所

認知症高齢者グループホーム 1カ所

小規模多機能型居宅介護事業所 1カ所

(4) 医療従事者の確保に関する目標

以下に記載する医療介護総合確保区域の課題を解決することを目標とする。

- ・ 医師の偏在を解消するための取組の促進
- ・ 医療従事者にとって働きやすい職場環境の整備のための取組を促進
- ・ 看護職員の養成、定着促進、離職防止及び復職支援のための取組の促進
- ・ 臨床研修医マッチング者数の高水準の維持（R4：126人）
- ・ 医師配置システムによる医師配置・派遣数の増加（R3：61人→R4：83人）
- ・ 糖尿病性腎症による新規透析導入患者数の減少
（H26～H28 平均：197人→H29～R4 平均：減少）
- ・ 県内病院新人看護職員離職率（R2：8.5%→R4：7.8%）
- ・ 県内の認定看護師数の増加（H30：212人→R4：255人）
- ・ 看護師等養成所運営費補助対象施設卒業生の県内就業率
（H31：52.7%→R4：55%以上）
- ・ 県内看護職員就業者数（H30：15,898人→R4：17,870人）
- ・ 病院内保育所保育児童1名あたり24時間保育＋休日保育日数
（H30：15.0日／名→R4：18.0日／名）
- ・ 小児科2次救急輪番病院数（R3：14機関→R4：14機関を維持）
- ・ 小児2次輪番病院の外来患者数（H30：4,876人→R4：6,300人）
- ・ DMAT チーム数（R3：21チーム→R4：24チーム）

(5) 介護従事者の確保に関する目標

介護現場における人材不足の改善に向け、介護従事者の増加を目標とする。

県、奈良労働局、県福祉人材センター、介護事業の経営者、職能団体、養成機関、教育団体等で構成する協議会において、調査分析や施策の検討などを行い、県、市町村、民間団体における様々な取組を推進する。

(参入促進)

本県の介護分野の有効求人倍率は 5.20 倍（R3 年 6 月）と全国平均 4.39 倍を大きく上回る状況にある。改善に向け、介護職の仕事の魅力とやりがいを発信するとともに、きめ細やかな就労斡旋などを実施する。

- ・ マッチングの機能強化（相談支援の専門員 5 名配置）
- ・ 地域への介護職の魅力発信（講座の開催）
- ・ 若者、女性、中高年齢者層に対する介護の基礎的な研修実施（職場体験など）
- ・ 介護職員初任者研修資格取得支援
- ・ 福祉・介護の就職フェアの開催（求人情報や資格取得情報等を提供）

(資質の向上)

有資格者に対して資質向上やキャリアアップのための研修やリーダー育成のための研修を行う。また、潜在的有資格者に対しては、離職後のフォローができていないため、再就労につなげるための研修等の実施によるアプローチを行う。

- ・ 介護人材のキャリアアップ研修の実施
- ・ 潜在介護福祉士の再就業支援（講座の開催、啓発パンフレットの作成）
- ・ 認知症サポート医の養成
- ・ 認知症介護、認知症介護指導者研修の実施
- ・ OT 等指導者の養成

(労働環境・処遇の改善)

介護職員は、勤務環境や処遇が問題となって離職することが多いことから、離職防止のために介護職員と介護事業所双方への支援や働きやすい環境づくりに取り組む。

- ・ 早期離職防止のための OJT 支援
- ・ 雇用管理改善のためのセミナーの開催等を支援
- ・ 認知症介護指導者研修に係る負担軽減
- ・ 介護事業所等におけるインターンシップ等の導入促進
- ・ 介護ロボット・ICT 導入等に対する支援
- ・ 外国人留学生や福祉系高校の学生、他業種からの転職者に対する修学資金の貸与
- ・ 外国人受入体制の構築及び受入環境の整備支援
- ・ 若手職員の離職防止のための交流会の開催等を支援

2. 計画期間

令和 4 年 4 月 1 日～令和 6 年 3 月 31 日

■奈良県全体（達成状況）

1. 目標の達成状況

(1) 地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業

- ・ 医療機関が、地域の関係者間の合意の上、奈良県地域医療構想に即した病床機能再編の実施に伴い、減少する病床に応じた給付金を支給することで過剰な病床を削減することを目的とした事業だが、令和 5 年度は申請がなかった。

（単独支援給付金支給事業）

(2) 居宅等における医療の提供に関する目標

- ・ 在宅看取り率(自宅+老人ホーム)の向上：(R4) 28.9%
- ・ 在宅療養支援診療所数の向上：179件 (R5. 10)

- ・訪問歯科診療件数（延べ患者数）：183件（R5.9末値）

（3）介護施設等の整備に関する目標

- ・地域密着型サービス等整備費用に対する支援
認知症高齢者グループホーム 7カ所
小規模多機能型居宅介護事業所 1カ所

（4）医療従事者の確保に関する目標

- ・分娩 1,000 件あたりの分娩取扱医療機関勤務産婦人科医師数
(H30：8.9 人→R3：9.4 人)
- ・糖尿病性腎症による新規透析導入患者数
(H26～H28 平均：197 人→R2～R4 平均：199 人)
- ・小児科 2 次救急輪番病院数 (H30：13 機関→R4：14 機関へ拡大)
- ・小児 2 次輪番病院の外来患者数 (H30：4,876 人→R4：5,193 人)
- ・DMAT チーム数 (R1：26 チーム→R4：23 チーム)

（5）介護従事者の確保に関する目標

(参入促進)

- ・マッチングの機能強化（相談支援専門員配置数 R3：5 人→R4：5 人）
- ・地域への介護職の魅力発信（フリーペーパーの発行 年 4 回、R4：50,000 部）
- ・若者、女性、中高年齢者層に対する介護の基礎的な研修実施
(職場体験 R3：178 人→R4：111 人 元気なシニアに対する入門的研修受講者数 R3：56 人→R4：54 人)
- ・介護職員初任者研修資格取得支援（受講者数 R3：271 人→R4：220 人）
- ・福祉・介護の就職フェアの開催 (R3：3 回→R4：3 回)

(資質の向上)

- ・介護人材のキャリアアップ研修の実施（受講者数 R3：1,773 人→R4：1,054 人）
- ・潜在介護福祉士の再就業支援（研修受講者数 R3：178 人→R4：210 人）
- ・認知症サポート医の養成 (R3 末時点：2,424 人→R4 末時点：2,546 人)
- ・OT 等指導者の養成（受講者数 R3：411 人→R4：309 人）

(労働環境・処遇の改善)

- ・雇用管理改善の取組みのためのセミナー開催、相談支援 (R3：3 事業→R4：1 事業)

□認知症介護、認知症介護指導者研修の実施（受講者数 R3：218 人→R4：70 人）

- ・介護ロボット・ICT 導入に対する支援
(介護ロボット導入台数 R3：54 台→R4：69 台)
(ICT 導入事業者数 R3：31 事業所→R4：12 事業所)
- ・外国人留学生への奨学金の給付等
(支援法人数 R3：3 法人 (82 人) →R4：2 法人 (167 人))
- ・外国人留学生の日本文化体験 (R4:15 人)
- ・若手職員の離職防止のための交流会の開催 (R4：3回)

2. 見解

- ・地域医療構想実現に向けた事業を行うことで、地域における病院の役割等について県内病院の意識共有及び病床の機能分化が進み、効率的かつ効果的な医療提供体制の構築が一定図られた。
- ・また、県内の要介護・要支援認定者に対する地域密着型サービス施設が増加し、高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築が進んだ。
- ・新型コロナウイルス感染症対策においても一定程度成果をあげた。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止したことにより目標に到達しなかった事業については、事業ごとに効果や有効性を検証し、それらを踏まえた上で改善

を図り、より良い事業となるよう検討していく。

3. 目標の継続状況

令和6年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。

令和6年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

■奈良・東和・西和・中和・南和（目標と計画期間）

1. 中央区域の医療と介護の総合的な確保に関する目標

(1) 地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する目標

奈良県全体の目標と同じ

(2) 居宅等における医療の提供に関する目標

奈良県全体の目標と同じ

(3) 介護施設等の整備に関する目標

奈良県全体の目標と同じ

(4) 医療従事者の確保に関する目標

奈良県全体の目標と同じ

(5) 介護従事者の確保に関する目標

奈良県全体の目標と同じ

2. 計画期間

令和4年4月1日～令和6年3月31日

□奈良・東和・西和・中和・南和（達成状況）

1. 目標の達成状況

奈良県全体の達成状況と同じ

2. 見解

奈良県全体の達成状況と同じ

3. 目標の継続状況

令和6年度計画にも当該目標に関連した目標を掲げている。

令和6年度計画には当該目標に関連した目標は掲げていない。

3. 事業の実施状況

令和4年度奈良県計画に規定した事業について、令和5年度終了時における事業の実施状況を記載。

事業の区分	1 - 2. 地域医療構想の達成に向けた病床の機能又は病床数の変更に関する事業	
事業名	【No. 1 (医療分)】 単独支援給付金支給事業	【総事業費】 0 千円
事業の対象となる区域	全圏域	
事業の実施主体	奈良県の医療機関	
事業の期間	令和4年4月1日～令和6年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	中長期的な人口減少・高齢化の進行を見据えつつ、地域の実情に応じた質の高い効率的な医療提供体制の構築が必要	
事業の内容 (当初計画)	医療機関が、地域の関係者間の合意の上、奈良県地域医療構想に即した病床機能再編の実施に伴い、減少する病床に応じた給付金を支給する。	
アウトプット指標 (当初の目標値)	対象となる医療機関数 1 医療機関	
アウトプット指標 (達成値)	令和5年度においては、当該給付金の申請はなかった。	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： なし	
	<p>(1) 事業の有効性 地域医療構想の実現に向け、過剰な病床の削減を図れる。</p> <p>(2) 事業の効率性 給付金のため、スムーズな支給・削減が可能。</p>	
その他		

事業の区分	5. 介護従事者の確保に関する事業	
事業名	【No.48 (介護分)】 介護人材確保対策推進補助事業 (介護施設、介護事業所への出前研修の支援事業)	【総事業費】 167 千円
事業の対象となる区域	県全域	
事業の実施主体	民間団体	
事業の期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日 <input type="checkbox"/> 継続 / <input checked="" type="checkbox"/> 終了	
背景にある医療・介護ニーズ	高齢者が地域において、安心して生活できる体制の構築を図る。 アウトカム指標： 介護従事者（常勤換算）の増加 年 658 人	
事業の内容（当初計画）	地域密着型サービス事業所の職員を対象に、認知症ケア及び次期介護報酬改定をテーマに研修を実施する。	
アウトプット指標（当初の目標値）	地域密着型サービス事業所の職員を対象に研修の実施 3 回 90 人（予定）（事業公募）	
アウトプット指標（達成値）	地域密着型サービス事業所の職員を対象に学習会、講演会を実施	
事業の有効性・効率性	事業終了後1年以内のアウトカム指標： 観察できた →参加者数：213 人	
	<p>（1）事業の有効性 本事業により 213 名が学習会、講演に参加し、認知症ケアの理解が深まった。</p> <p>（2）事業の効率性 民間団体への補助により、効率的に事業を実施することができた。</p>	
その他		